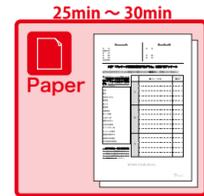


国際WSで収集を試みたデータと得られた成果(抜粋)



アンケート用紙によるWS参加前後の参加者の変化傾向分析及び観光プログラムの比較

調査概要

新たな体験型観光プログラムの検討を目的として、サイトシーング型、ツーリズム型、アートプロジェクト型の3つの観光プログラムへの参加前後の意識変化について調査しました。検証では、日本と台湾の大学生を対象とし、参加動機へ影響する項目を用いたアンケート調査としました。

なお、参加学生に対して、ワークショップ開始前と終了後に、各々30分をかけてアンケート用紙に記入を求める方式としました。

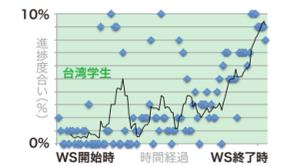


スマホアンケートによる参加学生の心理状態の変動把握

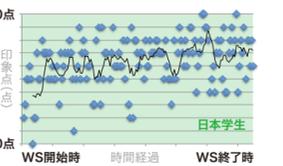
日本語・中国語対応の、スマートフォンで回答可能なオンラインアンケートに、毎食後(計13回)回答してもらいました。

WSの開始から終了までの参加学生の心理変化が下記のグラフのように変化していることが明らかとなりました。

Q3. 課題の進捗具合はどの程度ですか?



Q6. 壮瞥町に対する印象は?



参加動機の変化に対する知見

参加動機に関わる意識変化については、日本の学生は、新しい体験ができてお得感のある「価値体験欲求」を満たせる観光プログラムへの参加前後の意識変化について調査しました。検証では、日本と台湾の大学生を対象とし、参加動機へ影響する項目を用いたアンケート調査としました。

観光プログラムの比較

観光プログラムの内容については、サイトシーング型は、チャレンジ性の高い観光を期待する観光客には適切でなく、ツーリズム型は新しい発見を期待する観光客には適切でないことが明らかとなりました。これらの結果から、既存の観光プログラムであっても、ターゲットユーザーの観光動機に関する明確な分析、かつ、プログラムの魅力化により、発展的なツーリズムへつなげられる可能性が示されました。



カメラ付きGPSロガーによる対象物/場所/心理を紐付けた観光地評価手法の試用

参加した学生には、カメラ付きのGPSロガーを常時携帯してもらいました。これは、観光(調査)中に「景色に感動する」「ゴミが落ちていて残念な気分になる」など、何らかの心理変化がおこった際に対象物にカメラを向けて、対応する感情ボタンを押して撮影してもらおうものです。同時に、GPSで撮影場所が記録されるため、観光地の客観的な評価を行う手法になり得ると考えられます。

エゴグラムによる性格分析

エゴグラムとは心理学に基づく性格分析方法の一つです。今回のワークショップでは、参加すること自身が参加者にどのような性格変化をもたらすかを定性的に明らかにするため、エゴグラムを用いた評価実験を行いました。エゴグラムの結果は正義感や責任感を表す「お父さん度」、優しさや思いやりを表す「お母さん度」、冷静さや判断力を表す「論理性」、好奇心や想像力を表す「やんちゃ度」、協調性や忍耐力を示す「優等生度」という性格基準の値で示されます。

分析の結果、アートプロジェクト型は学生の創造性・自発心・好奇心に影響を与えやすい可能性があることや、サイトシーング型は学生の積極性・自発性に影響を与えやすい可能性があることが示されました。また、学生によってワークショップの影響が顕著にでる学生と、あまり有意に影響がでない学生がいることがわかりました。



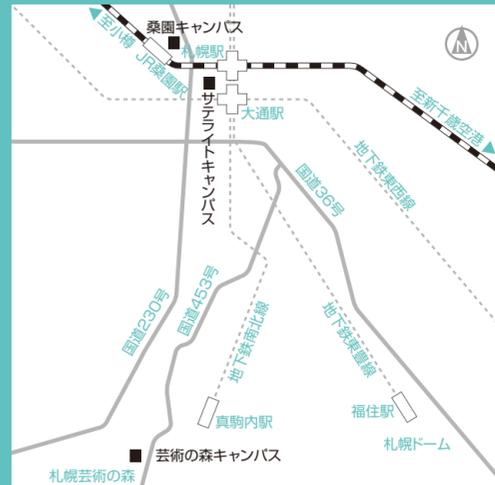
評価ボタン毎の対象物の例



Google Earthでの移動軌跡の可視化例

研究フィールド

本研究は全国で5番目の人口を有する北海道最大の都市札幌市にある、札幌市立大学デザイン学部芸術の森キャンパスを拠点に、研究教育活動を実施しています。



札幌市内

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL: 011-592-2300(代表) FAX: 011-592-2369
URL: www.scu.ac.jp

前年度に引き続き、有珠郡壮瞥町を中心としたフィールドでACP仮説を検証する活動を実施しました。また、高知県の先行事例調査活動を行いました。



芸術の森キャンパス



【本研究に関するお問い合わせ】
公立大学法人 札幌市立大学 地域連携課 受付 ACP事務局
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL: 011-592-2574(直通) TEL: 011-592-2300(代表)
E-MAIL: acp@scu.ac.jp



日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A) 研究課題番号:16H01803

「拡張キャンパス型地域連携」による過疎市町村の自律的創生デザイン研究

研究代表者: 蓮見孝(札幌市立大学 デザイン学部 教授)

平成29年度の成果のまとめ

札幌市立大学では平成25年度から大都市と周辺市町村の連携による地域創生デザイン研究に取り組んできました。最初の研究はTSSプロジェクト(タイム・スペースシェアリング型地域連携:平成25~27年度科研A採択)で二地域居住を軸とした地域連携でした。このプロジェクト成果を受けて始められたのが今回のACPプロジェクト(拡張キャンパス型地域連携:平成28~30年度科研A採択)です。

このプロジェクトは全国には大学の立地しない市町村が過半数を占めることに着目し、大都市に立地する大学の機能と効用を大学の立地しない周辺市町村へ拡張し、大学にとっては地域現場での実践的な学習による教育効果の増大、周辺市町村にとっては大学の教育プログラムを観光を中心とする地域ビジネスに取り込むことによる新たなビジネスモデル創出という一挙両得を狙ったものです。

事例として取り上げた地域は札幌市と壮瞥町(その後洞爺湖周辺1市3町へ拡大)で、札幌市に立地する本学が壮瞥町商工会を中心とする地

元の全面的な支援のもとに推進いたしました。また、内閣官房・内閣府が活用を推進しているRESAS(地域経済分析システム)によれば、同地域にはインバウンドによるビジネスチャンスが高まっているものの、宿泊客の伸び悩み、冬季の魅力あるコンテンツの不足等が課題として浮かび上がっています。

これら現状の課題を踏まえ、平成29年度は来道外国人旅行者の中心である台湾の学生と日本の学生による国際ワークショップを洞爺湖地区で開催し、新たな体験型観光プログラムの検討を行いました。その結果、「教育」という大学が有する固有の機能を活用することにより、例えば既存の観光プログラムであっても魅力的な滞在型の観光プログラムへ発展しようという感触を得ました。

今後はこの成果を踏まえ、より現実的なプログラムの立案に向け研究を進めて参ります。

2017 report



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

研究概要

本研究は、大学の機能や効用を活かした「拡張キャンパス型地域連携プログラム（以下ACPと略記）」により、大都市の持つ資源やパワーを周辺過疎市町村に効果的に適用させるしくみづくりをめざすものです。周辺過疎市町村の自律的な活性化を促し、同時に大学における教育効果を高めるためには、どのような課題を解決し、どのようなプロセスを経るべきかを、ACPの実証実験により解明します。

研究対象フィールドは北海道地域とし、大都市として札幌市、周辺過疎市町村として有珠郡壮瞥町を取り上げます。具体的には札幌市内に立地する札幌市立大学とその連携関係にある大学、そして壮瞥町とその周辺市町の住民や産業界の連携によるACPの運用を通して、若年層を中心とした連携地域間の人的交流の促進、地域産業の活性化、住民のウェルネス向上を図ります。

本研究で得られる成果は、札幌市立大学がめざす「地域創生デザイン学」の方法論の確立と体系化に活かします。

概要 outline 日台5大学の学生が6チームに分かれて夏の日本(壮瞥町)にてワークショップを実施



スケジュール

1年目(平成28年度 成果概要)

- 研究計画に基づき 授業型学び PBL型学び WS型学び(国内WS) を実施 加えて FW型学び を実施

2年目(平成29年度 成果概要)

- 平成28年度の成果をもとに WS型学び(国際WS) ・[サイトシーング型] ・[ツーリズム型] ・[アートプロジェクト型] を実施 加えて FW型学び を実施

3年目(平成30年度 実施計画)

- 平成28、29年度の成果をもとに 教育プログラム化 / 地域住民の意識改革検証 学問体系化 / 継続的ビジネスモデルの構築 を実施予定



2017年9月18日から約1週間の期間で、国際交流ワークショップを実施しました。参加校は札幌市立大学(札幌)、明星大学(東京)、華梵大学(台湾)、国立台中科技大学(台湾)、国立雲林科技大学(台湾)の5校で、総勢54名(札幌18名、東京10名、台湾26名)の学生が6つのチームに分かれ、北海道有珠郡壮瞥町を中心とした1市3町(洞爺湖周辺地域)をフィールドとした国際交流デザインワークショップとなりました。

ワークショップテーマ

観光客向け「ツーリズム」

中国に代表される海外からの観光客が、いわゆる「爆買い」をする観光から、食や文化を対象とした「体験」をもとめる観光に変化しつつあります。また、日本では地方の活性化を目的とした地域創生に注目が集まり、地域には自律して地域を創生することが求められるようになりました。このような時代背景から、「地域が自律的に地域創生を行うことにつながるツーリズム「壮瞥町を訪れる観光客に提供する「ツーリズム」の提案」を行いました。

「拡張キャンパス型地域連携」による過疎市町村の自律的創生デザイン研究(略称: ACP: Augmented Campus Program)の仮説に基づき、参加した学生がグループ毎に【サイトシーング型】【ツーリズム型】【アートプロジェクト型】を各々体験し、新たなツーリズムのあり方を提案しました。



いわゆる観光

[サイトシーング型]

group A

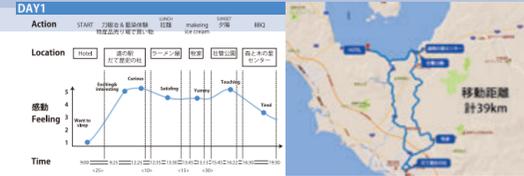


三松正夫記念館 有珠山ロープウェイ 火山科学館 黎明観で鑑染め体験 刀鍛冶見学 伊達市道の駅 噴火湾展望公園 遊覧船で洞爺湖観光

感動之旅

青青の温暖 不曾被踏入的淨土

左記の「いわゆる」観光体験【観覧】を通して、観光資源を「感動」から分析し設定した台湾人男性にマッチした観光ルート(時間感覚)を提案しました。



[サイトシーング型] group A1

愛の噴火 outburst of love

左記の「いわゆる」観光体験【観覧】を通して、洞爺湖の魅力「火山」と定義し若者に訪れてもらうための観光シナリオを提案しました。



[サイトシーング型] group A2

満喫火山旅

Feel the power of the volcano tour

左記の「いわゆる」観光体験【観覧】を通して、台湾人の「火山」への関心に着目し、洞爺湖地域の魅力を「火山」というキーワードで再解釈しました。



[サイトシーング型] group A3

地域に眠った観光

[ツーリズム型]

group B



フットパス体験(洞爺湖展望台と果樹園コース)

フットパスを安全に楽しく

Plan to make a foot path fun safely

左記の「地域インストラクターによる自然体験」【体験】を通して、フットパスの魅力を最大限に引き出す改善点の洗い出しと提案を行いました。

スタンプラリーの提案



スタンプを集めて 頂上で記念品と交換

[ツーリズム型] group B1



いこい荘での 高作種収穫体験

農場体験

左記の「地域インストラクターによる自然体験」【体験】を通して、農場での収穫体験に対する「満足感」分析を通じた「気づき」から、体験を増幅する提案を行いました。

[A] 人によって期待値が異なる [B] 知識・情報が無いから よりパンフレットの作成でこれから行なう体験への期待値の向上



地域創生の先進事例調査を目的としたフィールドワーク型学びの実施



FW : Field Work

2018年3月2日(金)~5日(月)の3泊4日で、高知県高知市、いの町、四万十町、香美市を対象に、フィールドワーク型学びの一環として先進事例調査を行いました。過疎市町村の継続的ビジネスモデルの先進事例を視察することで地域の自律を促す知見を得ることを目指し、以下の2点に注目し視察を行いました。

- 1. 地域資源を活用した体験型プログラム 2. 過疎市町村における持続的ビジネスモデル

視察初日は、移住住民が主体となり新たに立ち上げた「生活市」、高知県立池公園のオーガニックマーケットを視察しました。その後、着地型観光ツアーを企画している高知市の老舗旅館、城西館の「とさ恋ツアー」が企画する、いの町の地域住民が作る体験プログラム「田舎寿司と皿鉢料理づくり」に参加しました。

2日目は、自然環境を保全しながら独自商品の開発・販売、人材育成に取り組んでいる(株)四万十ドラマが運営する「道の駅四万十とおわ」で聞き取り調査を行いました。最終日は、香美市の「土佐塩の道保存会」の有志が整備し復活させた、かつての塩の道を歩く体験プログラム「土佐塩の道ウォーキング」を体験し、主催者に聞き取り調査を行いました。



地域への参画観光

[アートプロジェクト型]

group C

本チームは、地域の魅力そのものを創造する【参画】観点から洞爺湖畔 旧滝之上キャンプ場跡地の魅力創造の実践を行いました。



天候に恵まれず、コンディションが良かったとは言えない状況でしたが、札幌市立大学教員の指導と、壮瞥町商工会の皆様をサポートを受け、学生が3日間の創造を行いました。

[アートプロジェクト型] group C

group C1

group C2

group C3

group C4



group C5

